

林業経済学会2010年春季大会

2010年春季大会運営委員会

1 日時・会場

2010年4月5日(月) 筑波大学生命環境学群2B412教室

9:30 開会

9:40 大会報告(40分×3)

11:40 コメント(15分以内×2)

12:10 (休憩)

13:30 質疑, 討論(報告者, コメンター)

17:00 総会

18:00 懇親会(生命環境学群大食堂)

大会参加費: 社会人1,000円, 学生500円, 懇親会費 社会人4,000円, 学生2,500円

関連会議:

編集委員会 2010年4月2日(金) 15:00~17:00 生物農林学系棟C713

理事会・評議員会 2010年4月4日(日) 13:30~ 生物農林学系棟F506

2 大会概要

大会統一テーマ: 地域森林管理の主体形成と林業・山村問題

座長: 土屋俊幸(東京農工大学)

報告者とコメンター:

報告1 興杓克久(九州大学) 林業事業体の経営展開と林業労働問題

報告2 山本信次(岩手大学) 市民参加・森林環境ガバナンス論の射程—森林ボランティアの役割を中心として—

報告3 石崎涼子(森林総合研究所) 森林・林業政策の改革方向と地域森林管理

コメント1 古井戸宏通(東京大学) 国土管理の枠組みの視点から

コメント2 佐藤宣子(九州大学) 林業政策・山村社会論の視点から

3 テーマ設定の趣旨

本シンポジウムは、1990年代以降、たびたび議論されてきた森林管理問題をテーマに、林業経済研究の課題と方法を総括的に検討することを目的としている。本学会が50周年記念として発行した『林業経済研究の論点—50年の歩みから—』において、本日の座長の土屋俊幸は、1990年代から2000年代前半の林政の転換を「最も大きな転換点の一つ」と位置づけ、「われわれは、まだ、この時期がこれまでの林政の流れの中でどのような位置づけにあり、また、その『転換』はどのような意味を持つのかについての総合的・総括的な見解を残念ながら共有するに至っていない。」と総括している。

林政の展開だけでなく、森林管理とその担い手に関しても現在、大きな転換期にあり、その「転換」と日本の特徴の意味を問うことは、現段階の林業経済研究の方法とわが国近代林政の問題点を総括的に検討することでもある。1990年代以降、森林管理問題に関して、施業管理や制度・政策的な管理とともに国土利用・地域資源管理論的視点からの研究が進められ、木材生産を目的とした人工林の管理問題だけでなく、奥地天然林や里山・都市近郊林の保全を包括した森林管理に研究対象が拡大した。地域森林管理の主体形成に関しても林業事業者や林業就業者、国・自治体の分析とともに地域住民やボランティア団体を含めたガバナンスの分析に研究視点が拡大している。しかし、その研究課題と研究視点の拡大にもかかわらず、その「総合的・総括的な見解の共有」に成功していないとするなら、その研究方法においてどのような課題が指摘できるのであろうか。研究対象の多様化に即

した市場経済対応、制度・政策、地域社会の相互関係論的な分析の深化と実証研究に裏打ちされた総合的・総括的な討議の進展を期待している。

本シンポジウムでは、①興枙克久「林業事業体の経営展開と地域森林管理」、②山本信次「市民参加・森林環境ガバナンス論の射程—森林ボランティアの役割を中心として—」、③石崎涼子「森林・林業政策の行財政と森林管理」の3報告と古井戸宏通「国土管理の枠組みの視点から」、佐藤宣子「林業政策・山村社会論の視点から」の2人のコメントをもとに総合討議を行う。

その際、個別の報告や現状認識に関する論点にとどまらず、①生産構造論と社会過程論、主体形成論的アプローチの関係、②市場経済対応と制度・政策対応、地域社会・住民対応、③自然資源管理と森林・林業の技術論的、歴史的視点からの林業経済研究の方法論の総合化を射程に入れた討議を参加者にも要請したい。

森林管理問題に関しては、本学会のシンポジウムにおいて、すでに以下の報告と総合討論がなされ、今回の座長、報告者、コメンターもこれに参加している。

- ①1997年秋季・1998年春季大会：「国際化、分権化」時代の森林管理問題（佐藤宣子）
- ②1999年春季大会：転換期における林業経済研究の課題（土屋俊幸）
- ③2004年春季大会：地方自治体による新たな林政と森林管理（石崎涼子）
- ④2005年春季大会：地域資源の総合的管理をめざして（佐藤宣子，座長：土屋俊幸）
- ⑤2007年春季大会：南九州の大規模皆伐・最造林放棄にみる林業構造問題（興枙克久）

こうしたこれまでの研究蓄積や議論を踏まえた報告者間、報告者とコメンター、参加者間の相互討論を通じた議論の深化と研究方法に関する総括を期待している。本シンポジウムが現段階の森林管理問題の解明と林業経済研究の進展に貢献できれば幸いである。

4 日本森林学会の大会日程（参考）

2010年	午前	午後
4月2日（金）		理事会・評議員会
4月3日（土）	総会・日本森林学会各賞受賞者講演	研究発表・公開シンポジウム・懇親会
4月4日（日）	研究発表	研究発表
4月5日（月）	研究発表・関連学会・研究会	研究発表・関連学会・研究会

5 会場へのアクセス

(1) つくばエクスプレス（TX）

つくばエクスプレス「秋葉原」駅から「つくば」駅まで、所要時間57分（快速では45分）。本数は1時間に5本～6本程度。（*）「つくばセンター」（「つくば」駅の地上）のバスターミナル5番乗り場から、関東鉄道バス筑波大学循環が約20分間隔で運行。「筑波大学中央」バス停下車。バスの所要時間は10分～15分。ただし朝夕は余計に時間がかかる場合があります。

(2) 羽田空港からの京浜急行バス

羽田空港から「つくばセンター」行バスで、「つくばセンター」までの所要時間2時間。本数は1時間に1本程度。「つくばセンター」着以降は、(1)の(*)以下参照。

(3) 東京駅から高速バス「つくば号」

東京駅八重洲南口5番乗り場から、高速バス「つくば号」で、「筑波大学中央」バス停下車。所要時間1時間15分。ただし朝夕は余計に時間がかかります。本数は1時間に2本程度。なお、「つくばセンター」止まりを利用の場合、「つくばセンター」着以降は、(1)の(*)以下参照。

(4) JR常磐線

JR常磐線「上野」駅から「ひたち野うしく」駅、「荒川沖」駅、「土浦」駅までの所要時間は、それぞれ57分、1時間、1時間6分程度。本数は1時間に3本～4本程度。また、「土浦」駅については、1時間に1本「特急フレッシュひたち」が停車する。その場合の所要時間は40分程度。それぞれの駅からバスに乗車。「ひたち野うしく」駅東口からは関東鉄道バス「つくばセンター」行バスで「つくばセンター」まで25分。

本数は1時間に2本から3本程度。「つくばセンター」着以降は、(1)の(*)以下参照。「ひたち野うしく」駅から「筑波大学中央」行きのバスもありますが、本数が限られています。

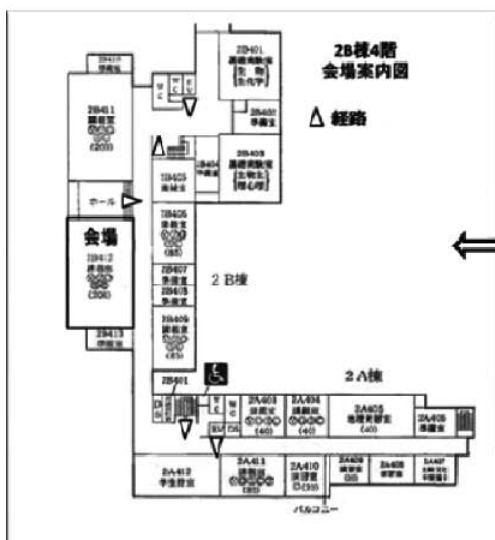
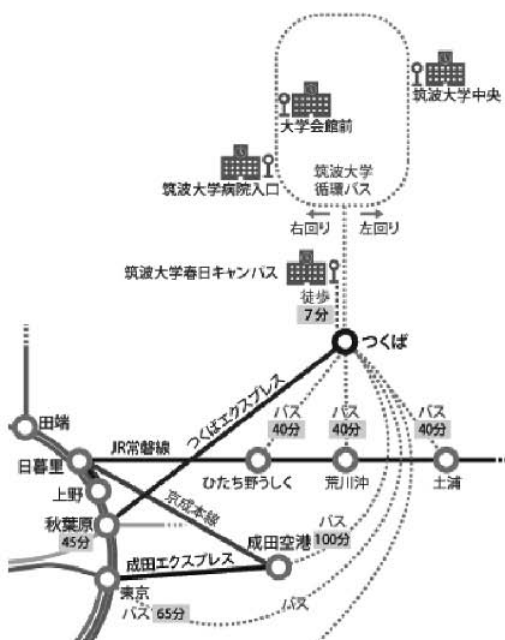
「荒川沖」駅西口からは関東鉄道バス「つくばセンター」行バスで「つくばセンター」まで25分。本数は1時間に3本程度。「つくばセンター」着以降は、(1)の(*)以下参照。「荒川沖」駅から「筑波大学中央」行きのバスもありますが、本数が限られています。

「土浦」駅西口からは関東鉄道バス「筑波大学中央」行バスで「筑波大学中央」まで40分。本数は1時間に3本程度。なお、「つくばセンター」止まりを利用の場合、「つくばセンター」着以降は、(1)の(*)以下参照。

いずれの場合もバスも朝夕は余計に時間がかかる場合があります。

*詳しくは筑波大学の交通・キャンパスマップをご参照下さい。

http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html



林業経済若手交流会からのお知らせ

○林業経済若手交流会とは

林業経済若手交流会（以下、若手会）は、若手研究者や大学院生の情報交換を主な目的とする交流団体です。1985年に有志によって設立されて以来、名簿の作成・懇親会の開催・シンポジウムの企画などを通じて、交流の場を設けてまいりました。入会費・年会費なし、入退会自由で有志により運営されている団体です。

○参加のお誘い

若手会に参加ご希望の方にはメーリングリストの登録を行っております。新規参加ご希望の方は下記のメールアドレスまでご連絡ください。

また若手会では企画を募集しています。開催を希望するシンポジウムのテーマや、これまでにない新たな企画などアイデアをお持ちの方は幹事までご一報ください。最近の若手に一言おっしゃりたい先輩方からの企画も歓迎いたします。

その他、諸事に関しまして若手会運営に協力いただける方を募集しています。

○若手懇親会のお知らせ

この度、林業経済学会春季大会にあわせまして、懇親会を開催いたします。数少ない若手研究者の交流の場がありますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。参加を希望される方は下記のメールアドレスにご連絡ください。

【若手懇親会】

日 時：4月4日（日）

場 所：筑波大学周辺

*詳細は確定次第、若手交流会メーリングリストにて連絡いたします。

連絡先：東京大学農学部林政学研究室 修士 芳賀大地（幹事・文責）

Tel：03-5841-5467（林政学研究室315号室）

E-mail：big_ground@fr.a.u-tokyo.ac.jp